

## 水辺空間活用（舟運）ワーキング 第 4 回 議事要旨

### 1 日時・場所

平成 28 年 10 月 14 日（水曜日） 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで  
東京都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 22

### 2 委員一覧

別紙 名簿のとおり

### 3 議題

- (1) 東京都舟運社会実験について
- (2) 意見交換
- (3) その他

### 4 主な発言要旨

〔清水教授（主査）〕

- 実験の目的（①新たな航路の検討とニーズの調査、②船着場周辺のにぎわい創出、船着場周辺施設とのつながりの強化）について、どのような成果や課題があったのかを整理してほしい。今後、本事業を実施する上で、一定の実績は必要である。
- 今後の課題 1：色々な手段を通じて露出をもっと増やし、「船が動いている」「普通の船とは違う」という点をアピールすべき。国や区の取組とも連携し、東京の舟運を世に訴えていくという姿勢が必要である。
- 今後の課題 2：今後この三つの航路をどのように位置付けていくか、今回の実績を踏まえて考える必要がある。
- 今後の課題 3：都が実施する事業として、運航だけではなく、にぎわい創出のために行政として何ができるのか（例えば、規制緩和や空間の解放など）を、今後の実験の中で強く打ち出してほしい。
- 今後の課題 4：ビジネスモデル構築のために、行政としてどのような支援ができるかということをもっと考えなければならない。

〔篠原准教授〕

- 過去の舟運の取組は採算が合わずに断念してしまったが、その時の反省点として、「観光」と「運航」が密接に絡み合わなければいけない、というものがあつた。各区や各地域の地域振興の動きと今回の社会実験を密接に絡めて事業を進めていく必要がある。
- 2020 年に向けた各区における観光振興の取組を船でつなぐという大きな構想を持って、それを全体としてプロモーションすれば、マスコミもいつもとは違う角度でPRしてくれると思う。

- お金をかけずにプロモーションできるようなアイデアを東京舟運パートナーズにも期待したい。
- 各区の取組と都の社会実験とがうまく連携できれば良いと考える。
- PR 不足という点については、区の担当者やまちづくりに携わっている人も乗船できていないのではないかと。PR していくためにはまず身内から乗船しなければと思う。

#### [墨田区]

- 吾妻橋エリアでは、毎月第 1 土日に産直市（マルシェ）を実施している。また、リバーサイドカフェを来年の春から開設予定である。
- 両国エリアでは、JR 両国駅の旧駅舎の一角に観光案内所を整備し、11 月末からオープンする。
- 観光協会でもまち歩きガイドツアーを実施している。

#### [江東区]

- 東京観光財団が水辺のにぎわい創出事業としてコミュニティサイクル事業を実施している。
- PR は区報や観光協会のホームページへの掲載が中心だが、効果を感じている。

#### [品川区]

- 品川区でも舟運社会実験を実施する。
- 国や都の社会実験便と乗り換えなどの運用ができるようにしたい。

#### [大田区]

- 春（6 月）に実施した社会実験の際のアンケートを踏まえて、秋（11 月）に再度社会実験を実施する。
- 今年度、大森ふるさとの浜辺公園に船着場の整備を進めている。来年度は、天空橋船着場と新たな船着場とを連携させた取組を検討している。
- 陸側のにぎわい創出が課題である。羽田空港周辺については、今後再開発を予定しているのでそれに期待している。新たな船着場を整備する大森ふるさとの浜辺公園の再整備に併せて、舟運の活性化を図っていきたい。

#### [屋形船東京都協同組合]

- 短い期間ではあるが、社会実験に参加することで色々な問題点を把握できたのは良かった。

例 1：社会実験で使用している船（第 2 縄定丸）は屋根が無いとため、天候に左右されやすいという実感を持った。

例 2：社会実験の開始時期が 9 月ということで、一般的には乗客が減り始める

時期だった。来年度は、時期も考慮の上、社会実験そのものをもっと積極的にPRしていただければと思う。

- (浅草二天門からの乗客が多いことについて) 都心部以外の棧橋もPRしてもらいたい。棧橋までの交通経路はタクシーや自家用車との回答もあるが、不便な所が多いので、棧橋まで気軽に歩いていけるようなまちづくりが必要であると感じた。

[東京湾遊漁船業協同組合]

- 乗客数が伸びないのは周知不足も一因であるとする。東京で「自由に船に乗れる」ということを、広く一般に周知していくことが今後の課題かと思う。

[東京観光遊漁船協議会]

- 宣伝効果は結果が出るまでに時間がかかるのは過去の経験からも言える。
- 今後は、今回の社会実験を通して、棧橋ごとの地域特性を生かした航路や時間帯等を考慮して、商品作りを行うのが良い。事業として成し遂げるには、地域社会との連携が必要である。
- 土日だけではなく平日も運航して、継続していくことが大切である。

[事務局]

- 都の方で軸と成る航路、取組を早いうちから各区にお示しできなかったことは反省し、次回にいかしていきたい。
- 今回の社会実験の成果を踏まえて、新たな定期ルートを創出するとともに、定期・不定期にかかわらず広く民間事業者にビジネス領域を拡大してもらうことを目指している。従って、需要の有無についても調査目的の一つである。今年度の結果を通して来年度の実施内容を検討する。

以上

水辺空間活用(舟運)ワーキンググループ(第4回)参加者名簿				
	役 職 名		委員名	備考
主 査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授		清水哲夫	
専門アドバイザー	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授		篠原 靖	
委員	東京都	政策企画局調整部技術政策担当課長	池田 中	
委員	東京都	政策企画局調整部政策担当課長	池田 庸	
委員	東京都	都市整備局都市基盤部物流調査担当	関口 知樹	
委員	東京都	都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	井川 武史	
委員	東京都	産業労働局観光部振興課長	若林 和彦	代理
委員	東京都	建設局河川部河川管理制度担当課長	高橋 正和	
委員	東京都	建設局河川部低地対策専門課長	富澤 房雄	代理
委員	東京都	港湾局港湾経営部監理担当課長	下羅 智宏	
委員	東京都	港湾局港湾整備部環境対策担当課長	小野 正揮	
委員	千代田区	環境まちづくり部 麹町地域まちづくり課長	金子 修	欠席
委員	中央区	区民部 商工観光課長	田中 智彦	欠席
委員	中央区	環境土木部 水と緑の課長	溝口 薫	
委員	港区	街づくり支援部 交通対策担当課長	西川 克介	
委員	港区	芝浦港南地区総合支所 まちづくり担当課長	村上 利雄	欠席
委員	港区	産業・地域振興支援部 観光政策担当課長	重富 敦	欠席
委員	台東区	都市づくり部 都市計画課長	望月 昇	
委員	墨田区	都市整備部 都市整備課長	齋藤 雄吉	代理
委員	墨田区	産業観光部 観光課長	金子 明	代理
委員	江東区	都市整備部 まちづくり推進課長	草深 玲安	代理
委員	江東区	一般社団法人 江東区観光協会 事務局長	田中 洋二	
委員	品川区	防災まちづくり部 河川下水道課長	和田 淳	代理
委員	大田区	まちづくり推進部 空港臨海部調整担当課長	浦瀬 弘行	代理
委員	江戸川区	土木部 水とみどりの課長	大竹 則之	
委員	日本旅行業協会 関東事務局事務局長		鈴木伸一	欠席
委員	関東旅客船協会 事務局長		西牧秀夫	
委員	屋形船東京都協同組合 理事長		佐藤勉	
委員	東京湾遊漁船業協同組合 理事長		飯島正宏	
委員	東京観光遊漁船協議会 会長		島田誠一	